謝辞

本論文を執筆するにあたり，多くの人々に支えていただきました．指導教官の梶茂樹先生（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所客員教授，京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科教授）はアフリカへ言語調査に行きたい，という私の突飛な想いを受け止めてくださり，様々な形で支えていただきました．調査対象言語の選択から，調査の機会を作っていただいたこと，調査のいろは，調査地での人々との関わり方，もちろん論文の内容も終始にいたるまで手取り足取り指導いただいたこと，梶先生に感謝しなければならないことを書き上げたら枚挙にいとまありません．学問的にも精神的にも梶先生の支えなくしては本論文の完成は考えられませんでした．梶先生に今日まで指導していただけたことに感謝します．また，副指導教官の加賀谷良平先生（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所教授）にも，調査の機会を与えていただいたこと，学問的にも厳しくも暖かいアドバイスをいただき支えてくださったことに感謝いたします．

また，本論文執筆のための現地調査は，その他の多くの方々の支援があって実現しました．現地調査は，文部科学省科学研究費補助金および財団法人日本科学協会笹川科学研究助成金により実現しました．自らもベンデ人で，私がベンデのコミュニティーに入れるようレールを敷いてくださったダルエスサラーム大学の Kapepwa I. Tambila 先生，タンザニア国内での調査中，カウンターパートになっていただき，近く，遠くから見守ってくださったダルエスサラーム大学スワヒリ語研究所の John Kiango 先生，そしてすばらしい環境での調査を保証してくれた Tanzania Commission for Science and Technology，Rukwa 州庁，Mpanda 県庁の皆様に感謝します．調査では Tambila 先生の姪にあたる Agatha Nyundo さんとは，調査 1 年目から最も多くの時間を一緒に過ごし，調査を支援してくれました．Agatha さんのおかげで，余所者である私が村の人々に暖かく迎えていただくき，たくさんの方々とのネットワークを作ることができました．また Mpanda の町でいつも私の帰りを待ち，両親のように私の身を気遣ってくださる Donati Mpepo ご夫妻に感謝します．そして何よりベンデの人々の支えがあってこそ調査が可能となりました．逗留したのは，調査の本拠地である Katuma の他，Mpembe，Bulamansi，Sibwesa，Mwese，Karema，Kasekese，Mpanda，Uvinza，Sumbawanga ですが，どこでも私を暖かく迎えてくれました．登山や狩りについて歩き回ったり，夜，満天の星を見上げながら他愛無い話をする村での日々は，何ものにも代え難い私の財産です．

ベンデ語調査では，Katuma 村の Yasini Mashaka さん，Hamisi Kaboko さんのお二人が最も多くの時間を割いてくださいました．Mashaka さんのベンデ語の正確な知

識と説明能力の高さ，Kaboko さんの自然に関する深い知識にはただ驚くばかりでした．Mashaka さんはインドア派で，ベンデ語の文法調査やテキストの分析など，机の上での作業に辛抱強くおつきあいいただきました．本論文の文法調査は，ほぼすべて Mashaka さんの言語観に拠っています．一方，Kaboko さんはアウトドア派で，一緒にあちこち野山を歩き回りながら会話練習をしたり，様々な自然の知識を教えていただき，ベンデ語の世界が机の上だけでは語りつくせないことを教えてくださいました．Kaboko さんは特に発音に正確で，声がかれるまで指導してくれました．また本論文に掲載した例文，例語のチェックは，ダルエスサラーム在住の Rita Nyundo さん，Raymond Nyundo さんご夫婦（Agatha さんのご両親）にしていただきました．お二人は 40 年前に村を出，都市に移り住んだにもかかわらず，ずっとベンデ語を使い続けてきた達人です．お二人のベンデ語は 40 年以上前のベンデ語を髣髴とさせるもので，お二人のベンデ語から近年のベンデ語が様々な変化を被っていることも見えてきました．他に，唄や物語を通してベンデの奥深い世界を語り伝えてくださった Mpembe 村の Mwamini Kajabala さん，Blamansi 集落の Frasia Mtulila さん，Zaina Bujuma Mayanga さん，Anna Watujabo さん，Mantele さん，Mwese 村の Mashaka Kabwege Mugalula Kapalagula 小首長，Sibwesa 村の John Michaeli さん，Rafaeli Andrea Malale さん，Amlos Tembwe さん，Katuma 村の Kasomela さん，Juma Chales さん，Kamaji 小首長，Kabahandila さん（故人）に感謝します．そして皆様，いつまでもお元気でベンデ語とベンデ文化を語り伝えてください！

またベンデ語の記述の段階では，バントゥ諸語研究の諸先生，先輩，仲間，また地域を問わず言語学という立場から多くの方々が支えてくださいました．最初にアフリカ諸言語研究への道を示してくださった東京外国語大学の中川裕先生，米田信子さん，角谷征昭さん，安部麻矢さん，品川大輔さん，若狭基道さん，Derek Nurse さん，神谷俊郎さん，Kari Ethelbert E.さん，Ruth Roberts-Kohno さん，中山俊秀さん，塩原朝子さん，加藤昌彦さん，笹間史子さん，蝦名大助さん，笹原健さん，江畑冬生さん，結城沙織さん，古閑恭子さん，林紅瑛さん，須藤秀樹さん，メイ・イン・インさん，黄詩淑さん，太田ワランヤさん，長渡陽一さん，中田俊介さん，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の言語学ゼミの峰岸真琴先生，芝野耕司先生，新谷忠彦先生（順不同）．

他にも，タンザニアでベンデの調査地まで送ってくださったり，ベンデやトングウェの自然観やこの地の調査の歴史を教えてくださった動物学の金森正臣先生，小川秀司先生，タンザニア滞在中，無謀な私の身を気遣ってくれ，病気の面倒まで見ていただいた JATA Tours の根本利通さん，金山麻美さんご夫妻，タンザニアにやって来る学生たちを我がことのように応援してくださる在タンザニア日本大使館の木村映子さんに感謝します．そして貴重な学生時代を共に過ごした，東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所の院生仲間に感謝します．最後に私の我侭を許しつつも，いつも心痛めながら見守り支えてくれた両親に感謝します．